

多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル：一級河川桜川における「水辺の楽校」の取組みについて			
水系／河川名：利根川水系 / 桜川		河 川 分 類：中小河川	
河川の流域面積：17.3km ²		整備計画流量：190m ³ /s(W=1/10) セグメント：1	
事 業：環境整備		事業開始年度 平成12年度	
目 標 設 定：定性的		段 階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：自然河岸、河畔林の保全・再生・創出、水辺へのアクセス改善			
工 法（主 な）：護岸整備			
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催、人材育成			

背景・課題、目標設定

<背景>

桜川は、世田谷区の移動教室の場である「ふじやまビレッジ」のすぐ脇を流れる川で、自然そのままの姿を呈している川です。しかし、子供たちが安全に川に近づける場所がなく、地元自治会や世田谷区川場ふるさと公社等から「桜川を自然観察やハイキングの場として整備してほしい」と要望が出されたのが始まりです。これを受け、住民参加による協議会を設立し、地域連携、合意形成の方法に配慮しながら整備方針を決定しました。

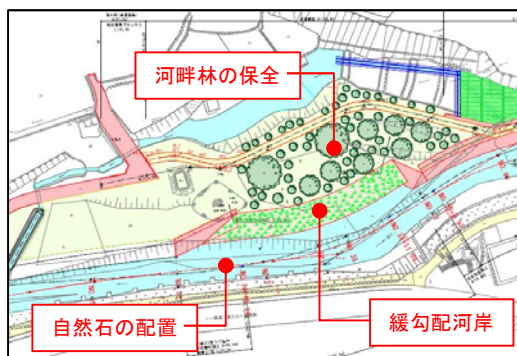
<課題>

桜川は、国交省の「水辺の楽校」にも登録されていることから、子供たちが身近な自然を体験する場として、いかに親水性を高め、安全に遊べる水辺の整備や自然を残した遊歩道等の整備、また、地域の暮らしとの調和、河川が本来もつ生物の生息等多様な河川景観を保全・創出できるか課題でした。

<目標>

自然を残存するような川づくり、地域の人たちやこの地を訪れた人たちが、自然豊かな桜川にふれあえる場を創出し、水や川の大切さ、必要性を再認識してもらうことを目標とします。具体的には、多自然川づくりの考えに基づいた護岸整備や遊歩道等の親水施設の整備などを行います。

取り組み内容・対策例



(1) 地域連携

川場村と世田谷区、地域住民の3者が連携することで、よりよい川づくりを目指します。

(2) 環境学習

「水辺の楽校」プロジェクトに合わせて、世田谷区の小学生の移動教室を受け入れている宿泊施設で桜川での環境学習を実施しています。

(3) 河川景観

多自然川づくりの考えを採用し、河畔林の保全、自然石の配置により自然景観を保全するほか、緩勾配河岸とするなど親水性向上を図りました。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<整備内容>

・砂防堰堤下流の水場を活かした河川プールや魚に触れあえる遊水ゾーン、足に優しいクレイ舗装を使った遊歩道、バリアフリーゾーン、田園風景が楽しめる散策路ネットワークなどの整備を行いました。

<整備後の効果>

・ふじやまビレッジでは世田谷区の小学生の移動教室を受け入れています。都会では得られなくなった豊かな自然の中に教室を移して、桜川での環境学習ができるようになりました。

<今後の展望>

・川場村と維持管理協定を結び、地域連携で維持管理行っていく予定です。

・川場村の事業として、水車小屋の設置・ワサビ田の整備を行い、耕作放棄地の防止、観光振興に役立てます。



施工前後の写真

備考

一級河川桜川における「水辺の楽校」の取組みについて

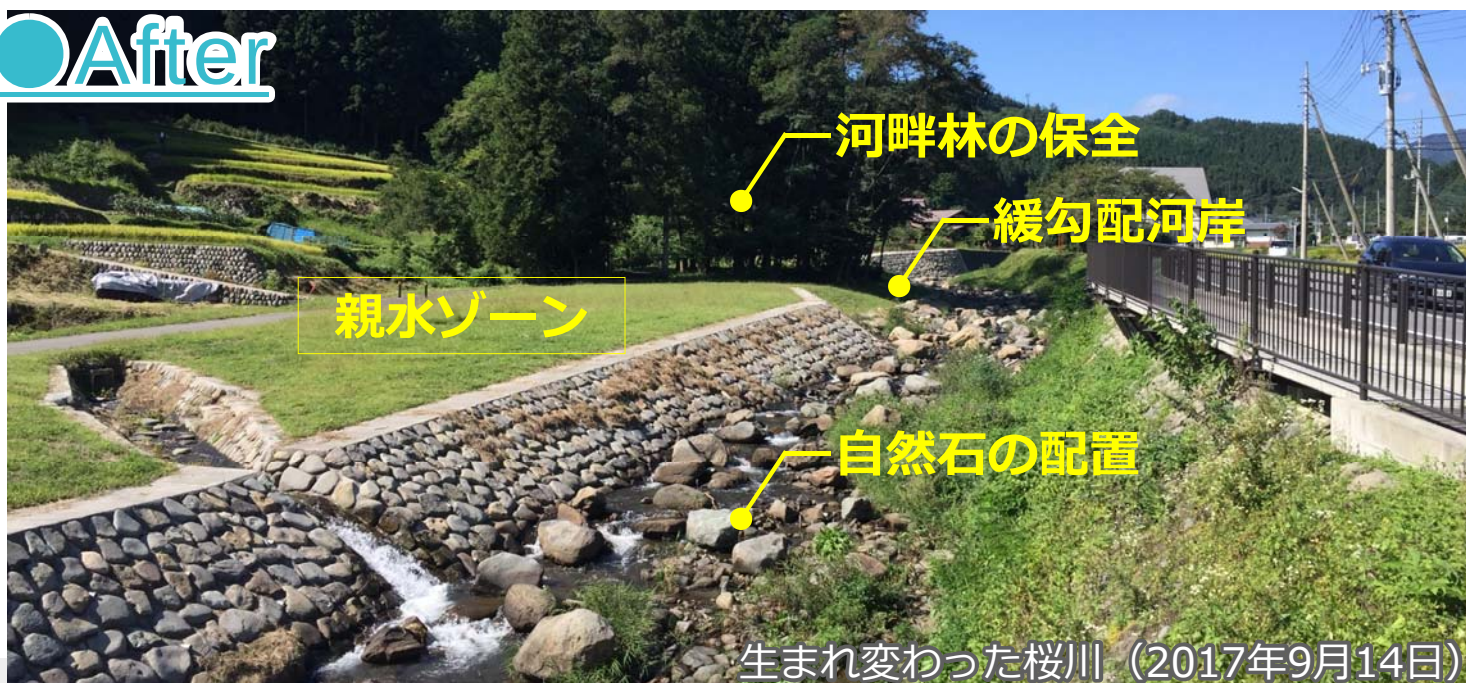
Keywords : 地域連携, 環境学習, 河川景観

Before



整備前の桜川（2015年6月11日）

After



生まれ変わった桜川（2017年9月14日）

桜川は、国交省の「水辺の楽校」にも登録され、子供たちが身近な自然を体験する場として、安全に遊べる水辺の整備や自然を残した遊歩道等の整備を実施しました。住民参加による協議会を設立して地域と連携しながら整備方針を策定し、河川景観へ配慮した川づくりを行いましたので、その取り組み事例について紹介します。